

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



梅雨空の神殿を車窓から ——

(6月18日 撮影)

教祖130年祭に向かって

三年千日 さあ！ おたすけ
祈る 動く つなぐ

立教177年
6月号



定時のおつとめに参拝

年祭活動2年目
別席ひのきしん団参

5月25日

布 教 部

布教部(田中隆之部長)では、5月25日(日)に別席ひのきしん団参を実施、現地参加など含め723人(布教部調べ・別席者含む)が参加した。

大教会の年祭活動実施目標「さあ! おたすけ」また、おたすけカードを通して人のたすかりを願う積み重ねの年とし

て、昨年1年目の「祈る」から一歩踏み出し、2年目の今年は「動く」をテーマに実働をさらに形にする事を確認するために行われたもの。

25日、日曜日の定時のおつとめに合わせて正午から東礼拝場で、ご本部の先生の拍子木に合わせておつとめをつとめた。

その後、別席者は別席場に向かい、他の参加者は別席場前に移動して初夏の暑さを感じる中、除草ひのきしんに汗を流した。

午後2時前、参加者は天理大学4階講堂に集合。大教会長様は、まず定時のおつとめと除草ひのきしんを労われ、その後、「別席ひのきしん団参は、おちばの理を頂戴し助かって頂ける人が一人でも増え、おちばがえりをする人が出てきて、その中から親神様・教祖のご褒美として別席者をお与え頂く。その結果、それぞれの教会でおつとめ奉仕者が増し、その喜びで、よくを忘れてたすけ一条に邁進させて頂くところにこの別席ひのきしん団参の大きな意味がある」と挨拶された。引き続き、筑波大学名誉教授村上和雄



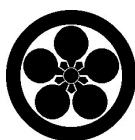
記念行事として映画「祈り」が上映された

先生の「祈り」の映画が上映された。内容は、遺伝子学の研究結果により大勢の人が祈る事で世界平和に近づく事ができるといふもの。

最後に田中同布教部長は、成人目標を活用して自分にできるところからおたすけ活動を笠岡一丸になって進めていこうと、残りの年祭活動への力強い推進を話された。

別席者等は次の通り——初席5人、中席22人、満席4人、おさづけの理拝戴5人。

<実行目標>人のたすかりを願いましょう



おたすけ・お願いカード 集計: 35,695枚

平成26年4月21日~5月20日



累計: 291,506枚

神殿落成奉告祭

並に創立90周年記念祭

金浦分教会

金浦分教会では6月8日(日)大教会長様ご夫妻、佐藤道孝・上原志郎両大教会役員を迎え、神殿落成奉告祭並に創立90周年記念祭を執り行った。当日は晴天の中、大勢のよふぼく・信者が参集した。

中国地方が梅雨入りし、毎日のように天気予報が変わり7日夜の鎮座祭、8日の日中だけは何とか雨が降らないでほしいと信者の皆が願う中、曇り空の中に、時々晴れ間の出るという素晴らしい天気のご守護を頂き、金浦分教会の「神殿落成奉告祭並に創立90周



重なる喜び、金浦分教会記念祭



新築の金浦分教会

年記念祭」は執り行われました。当日は大教会長様ご夫妻、又随行の先生のご参拝を頂き、子供を含めた70人の方々に参拝頂きました。

午前中は皆勇んだ声で十二下りのてをどりを唱和。午後の部では、琴の演奏、ハーモニカ演奏、三味線による安来節の弾き語り、最後は笠岡むつみ鼓笛隊の演奏演技となかなか見応えのあるステージで盛り上がりました。

先人の積み重ねて来られた金浦90年の道を、教祖130年祭という追い風を受けて、今後更に勇んで通りたい！と気持ちを新たにしたい一日でした。

(今川昌彦 金浦分教会会長)

こころの詩

笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

▼天理教道友社発行『天理時報』より転載

▽5月25日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡分教会よふぼく 藤井光子さん

七き兄の写真を見ては想い出す

小首^{かし}傾げる寡^{かもく}黙な兄を

・海松ヶ岡分教会よふぼく 池田広子さん

筍^{たけのこ}に落^{おち}と蕨^{わらび}も頂いて

今宵は山菜フルコースとす

▽6月1日付「時報俳壇」

・芦品分教会教人 金谷眞佐代さん

さつき映え雨も上がるやひのきしん

▼養徳社発行『陽気』誌九月号、「道柳」より転載。今回の課題は「実」。

▽佳 詠

・芦品分教会教人 金谷眞佐代さん

有難く目上の人の言葉聞き

・東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

神前でパチパチ上手もみじの手

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

第六回

タンザニアおたすけ訪問

海外部

ニメポテア ンジア

福満分教会長 福島 大介

5月27日から6月6日の11日間、大教会海外部の「第六回タンザニア布教」に同行した。

メンバーは、海外部長の上原志郎先生(6年連続)と、芳井分教会長の佐藤真孝先生(2年振り2回目)と、私の3人だ。

私は英語もスワヒリ語も出来ない。もしかすると日本語も怪しい。そんな私だが、タンザニア布教のパイオニアの志郎先生と、布教意欲メラメラの佐藤先生に支えられ、人生初のアフリカ大陸タンザニアの空気を吸い、大地を歩き、人に触れ、関空より飛ぶこと19時間。時差6時間のダルエスサラームに降り立つと、現地よぶくマユンガ氏とステイブ君が迎えてくれた。

滞在期間中のスケジュールを作り、それに沿って行動する予定が、計画の6割程度しか実行できなかった。というのも、現地の方々ののんびりとした性格か、はたまた時計を見ないのか? 1時

間、2時間、最長で3時間待たされたりもしたのだ。私達3人はこれを「タンザニア・タイム」と呼んだ。

ある日のこと、こうして予定が変更になったので、3人でパンフレットを手に散歩に出かけた。そして、大の大人3人、異国の地で道に迷ってしまった。宿泊先のマユンガ邸の近所を一廻りするつもりが、思いのほか遠廻りをしていったのだ。太陽の位置で方角を確認する佐藤先生。見覚えのある街並を探す志郎先生。だが一向に見当たらないマユンガ邸。どの位彷徨ったろうか、ふと私は胸ポケットに「カンニングペーパー」があるのを思い出した。それには、いくつかの簡単なスワヒリ語の日常会話を記していたのだが、まさか「ニメポテア ンジア(道に迷いました)」を本当に使う場面に遭遇するとは! ネクタイをキリッと締めた紳士にこの紙を見せると、携帯電話でマユンガ邸を調べてくれて、私達3人は無事保護されたのだ(笑)。

実は関空を発つ前の待ち時間に、私は自身が方向音痴であることを告げ、「万一迷子になったらこれをみせるよ。」と、カンニングペーパーを見せて笑ったのだ。その時、志郎先生が大教会青年U君の「道に迷いました伝説」を話してくれた。その内容というのは、大教会青年U君が、おぢばへのひのきしんに発つたときのことである。岡山



おさづけの後で子供達と

から高速バスで大阪に行き、その後電車でおぢばへと帰る予定であったU君、岡山で時刻通りバスが来たので飛び乗り、ほっとひと眠り、暫くして目を開けると、異様な空気に気付いた。何と乗客はほぼ全員がスポーツ新聞を片手に、もう片手には赤鉛筆を持っていたり、耳に掛けていたりした。皆真剣な眼差し。何かおかしい。青年U君はその時悟ったのだ。「このバスは丸亀行きだ」と。U君以外の乗客は、ボートレースの予想を必死にし



迷子を助けてくれた人々にをいがけ

ていたのだ。結局U君はおちばには帰らず、そのまま大教会に戻ったという話であった。
この話、出発前に3人で随分笑ったのだがタンザニアでの迷子騒動の話で、今度は私達3人がU君に笑われるであろう立場となった。
さて、タンザニア布教であるが、国全土を巡回しているわけではない。私達が行ったのは、ごく一部の都市、地方に過ぎないので、それでこの国の全てを語ることは出来ないが私が見た限り、貧

富の差は大きく、土埃、砂埃にまみれ、辺りはゴミだらけで、不衛生で病人も多い。交通事情も悪く、今にも壊れそうな(というより明らかに壊れている)自動車は街に溢れ、土地中心部の渋滞には閉口した。住居も「レンガ造り」と言えば聞こえは良いが、要するに赤土を練って固めた土の家だ。孤児院では、子ども達の見^み窄^{すぼ}らしい姿に涙を禁じ得なかった。それでもこの子ども達は笑顔で私達を迎えてくれた。街ですれ違う人も皆、陽気に親指を立てて挨拶をしてくれた。

「困っているだろう」「可哀相に」と思う心は私の驕りなのだ。物が溢れ、あるが上にも欲しがる私達と、決して満たされていないとは思えない彼らと、道を迷っているのはどちらなのだろうか？ 私達この道の信仰者は、人間の進むべき方向を知っている。だが、神人和楽の陽気ぐらしの道へと正しく歩んでいるのだろうか？一刻も早く、今の自分の立ち位置を確認すべきなのだ。――道に迷わないために…。



修養科を終えて

品治分教会 安原 功弥絵

私がこの修養科に来たのは親からの勧めでした。ずっと実家で暮らしてきたので、三ヶ月も家族と離れての生活は考えられなかったですし、不安ばかりでした。

修養科が始まるまでの一週間はとても長かったです。始まってから一日一日があつという間に過ぎていきました。教養掛の先生、修養科の先生、修養科で出会った方々が本当に良い人ばかりで不安だった修養科生活も楽しくて充実した日々でした。笠岡の修養科生は嬉しいことに三人とも年が近く、すぐに打ち解け仲良く過ごすことができました。三人共、お手振り初心者だったので教養掛の先生に一から細かく丁寧に教えて頂きました。全く出来なかったお手振りも三ヶ月間で覚えることができましたので本当に良かったです。修養科を終了して帰ったら是非自教会で勤めさせて頂きたいと思っています。



修養科終了後の声

実りあるろヶ月

大恵山分教会 瀬藤 大喜

今期の修養科生は男子一人、女子二人の計三人でした。三人とも年も近くて、最初は緊張してたけど、すぐ仲良くなれました。元々朝が苦手で準備の遅い私は最後まで先生や同期の人にご迷惑をおかけしました。

入る前は修養科がどんな所か全く想像がつかず、とりあえずしんどそうだなと思っていました。でも、実際はキャラの濃い教養の先生方や詰所の方々、修養科で出来たたくさんの友達に恵まれて、しんどい時でも楽しみながら通らせていただきました。

修養科では当たり前と思っていた事や日常の些細な事、周りの人への感謝の気持ち、たくさんの人に支えられているな、という思いが持てました。その中でも自分が相手に対して何ができるだろうと考え、それを実行する事、また真実込めて継続する事の大切さ大変さを学ばせていただきました。これからの人生、修養科で学んだたくさんの事を心に納めて通らせていただきたいと思います。

この3ヶ月支えてくださった方々、大切な人達に出会えた事に多くの喜びと感謝の気持ちです。本当にありがとうございます。



修養科を終えて

鶴眞分教会 頼 経 萌

私は天理教をあまり好きではありませんでした。かしまの・かりものだとかわかれても自分の身体は自分のものだし、感謝しろとか言われても納得できないものに感謝なんかできるわけがないと思っていました。

そんな状態で嫌々修養科に来ることになり、一ヶ月目は楽しくも何も無くて、何でこんな事になってんだらう、早く帰りたいばかり思っていました。

二ヶ月目の初めがピークで、修養科のクラスメイトの人達にもたくさん心配してもらってその時はじめて、「人つて優しいんだな」と感じて、その日から修養科を楽しいと思えるようになりました。お手振りはいっつになっても辛くて学びはいつも憂うつですが、三ヶ月目になると何となく自信のある部分とかも出てきました。

今後はここで得たもの、学んだ事を忘れないよう、教会に繋がっていきたくて思っています。そして人に優しく、自分がそうしてもらったよ

しく、自分がそうしてもらったよ



うに、人を元気付けられる人になっていきたいです。

始まった頃は長く感じた3ヶ月でしたが終わりはあつという間でした。修養科のために時間をくださった教養掛の先生方、同じように辛い時もあったのに励ましてくれた修養科生の2人、毎朝明るく見送って下さった事務所の先生方。875期の全ての方々に支えられて今があります。三ヶ月間、ありがとうございます。

<布教部>

○本部食堂ひのきしん

期 間 7月16日(水)～31日(木)

割 当 上下・府中市ブロック

○こどもおぢばがえり詰所受け入れひのきしん

期 間 前半：7月26日(土)昼食～30日(水)昼食

後半：7月30日(水)昼食～8月4日(月)昼食

割 当 各ブロックより、前後半、各1名ずつ

<海外部>

○第72回笠岡大教会英語講習会

外国人講師と一緒に英語で触れあおう！

日 程 平成26年8月8日(金)～9日(土) 1泊2日

8月8日8：30大教会集合 9：00出発(マイクロバス、ワゴン車)

8月9日16：00頃 大教会解散

場 所 国立吉備青少年自然の家

岡山県加賀郡吉備中央町吉川4393-82 (0866-56-7253)

内 容 自然の中で楽しむ英会話、目標によるクラス分け授業、ウォークラリー、きもだめし、ゲストによる講話、宿題をする時間、スキット、外国人布教による役立つ布教英会話など、毎食おいしいバイキング

対 象 小学5年生以上の学生、青年・女子青年層～大人

募集人員 30人程度

参加費 1,500円

応募期間 7月31日まで

<育成掛>

○よふぼく勉強会

・日 時 7月21日午後1時15分～2時

テ-マ 親孝心

講 師 高 木 孝 子(湯田原分教会長夫人)

・日 時 8月21日午後1時15分～2時

テ-マ 八つのほこり

講 師 吉 岡 貞 彦(芦田川分教会長)

<青年会>

○たすけの渦を巻き起こそう推進のつどい

期 日 9月7日(日)

内 容 派遣委員のお話、にをいがけ等

派遣委員 中山正直青年会本部委員長

※これに伴い、8月31日に予定していたひのきしん団参は、来年度に延期します。

<学生担当委員会>

○学生生徒修養会高校の部

期 間 8月9日(土)～15日(金)

学生生徒修養会 高校の部

主催/天理教会本部
事務局/天理教学生担当委員会



教会で勤められて受講したのですが、初めは行きたくないと思っていました。いざ来てみると、みんな温かく迎えてくれて、おちばで出会う人は優しい人ばかりだとびっくりしました。

期間中は、レクチャーやおつとめ勉強、室内オリンピックなど、どれも楽しく、ためになるものでした。その中でも特に心に残っているのは、班の仲間とじっくり話をしたことです。今までの私は、嫌なことがあると「なぜ自分だけこんな思いをするのだろう?」と思っていたけれど、みんなの話を聞いているうちに、自分の悩みはちっぽけだと感じ、もっと前向きな考え方をしようと思えました。これからは、学修で学んだことを心に刻んで、一日一日を大切にしていきたいです。

(受講生感想文より)

班の仲間と話すことで、考え方が変わりました。



●天理教学生会 web site

期間中の様子が分かる動画が見られます!



<http://tsa.tenrikyo.or.jp>

学修

検索

※『Happist』6、10月号でも紹介記事を掲載しています。

控 え	胡 弓	三 味 線	小 琴 鼓	す り が ね	太 鼓	拍 子 木	ち ゃ ん ぽ ん	笛	て を ど り	お つ と め	地 方	役 割 区 分	講 話	祭 主	扈 者	立教百七十七年 五月月次祭 祭典役割表																					
																	浅野明教	今川佐智子	佐藤香苗	虫明好美	上原志郎	森本忠平	門脇元教	谷内伸自	河原節喜	高木昭祥	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	吉岡繁道	上原繁道	大教会長様	上原浩治	佐藤道孝	縦の伝道講習会	森本忠平	大教会長様
																	高木孝子	森本富美子	武内正美	赤木素志	横山逸郎	山野弘美	岡崎輝彦	吉岡誠一郎	森本忠善	岡崎豊子	内海安子	上原順子	杉原博之	岡崎真一	上原繁道	武内清明	田中隆之	中村邦義	七月講話	指図方	賛者
中村初美	三島照美	今川佐智子	上原繁次	山田敏教	佐藤真孝	田林久嗣	渡邊隆夫	内海史郎	横山小智	笹尾一美	門脇加津	中村道徳	中島誠治	中村剛	虫明立生	三島渉	吉岡壽	今川昌彦	佐藤道孝	上原繁次	山野弘美																

<少年会>

○テッチャンシアター

- 日時 6月21日(土) 祭典終了後
- 7月21日(月) 祭典終了後
- 8月21日(木) 祭典終了後
- 9月21日(日) 祭典終了後

○少年会実技勉強会

- 日時 6月26日(木) 午後1時～2時30分
- 内容 「こどもおぢばがえり」で使えるゲーム
- 会場 少年会本部(真南棟4階)
- 参加費 200円

※詳細・申込用紙は、下記参照。

<http://www.tenrikyo-shonenkai.org/ikukatudou/01/bennkyo/index.html>

○第42回少年会員雅楽勉強会

- 期間 8月16日(土)～18日(月)
- 会場 本部第12母屋
- 受講費 2,500円

※詳細・申込用紙は、下記参照。

<http://tenrikyo-shonenkai.org/ikukatudou/01/gaben/index.html>

五月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の子供かわいい 一条の親心一杯の御守護により 日々は結構に恙なく生活させて頂いております事は誠に有難く喜び感謝の心一杯でございます 加えて「どのよふな事をするのも月日にわたすけたいとの一ちよはかりで」と身上や事情にしろしを見せて 陽気ぐらしへとお導き下さいます事は勿体ない極みでございます しかし時には見せられるいんねんの姿に親心を計りかねる時もあります 私共はそれらをすべて生き節にすべく親を信じ親にもたれて先を楽しみに日々は朝夕に御礼申し上げつつ 思召に応えられるようたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はこの教会にお許し下さいました五月の月次祭を執り行う日柄でございますので おつとめ奉仕人一同 喜び感謝に加えたすけ心一杯に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には今日の日お待ちわびて寄り集いました道の子供達が 三万五千六百九十五枚のおたすけお願いカードに思いを託し 相共に声高らかにお歌を唱和し 我身の救かりより他人の救かりを願う真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいませようお願い申し上げます

さて先日の全教一斉ひのきしんデーは雨で延期の会場や個別になつたところもありましたが 国内のみならず国外も合わせて全教一斉の思いを一つにしてひのきしんに励む事ができました 誠に有難うございました 又今月は直轄巡教をさせて頂き 年祭活動二年目の成人の歩みを現状確認すると共に 残された半年余りの月日を自己満足ではなく親神様教祖にお喜び頂ける歩みにして行く事 その為にもまずは二十五日の別席ひのきしん団参に一人でも多くの人をお誘いする事 ようぼくの集いに必ず参加する事を誓い合せて頂きました 更には又本日は祭典に引き続き縦の伝道講習会を開催させて頂きます 道の後継者育成は我が子のみならず むしろ少子化の進む今こそ一人でも多くの子供に教えを伝え広めて行かなければなりません お聞かせ頂く一つ一つをしっかりと心に納めて育成の糧にして行く所存でございます

何卒親神様には 教祖年祭に向けひながたを辿らせて頂く旬だからこそ 節を通して万分の一でもひながたを辿らせて頂いていると勇みに変えてたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上自由の御守護を賜り 人々の心が我が身救かりから人救けの心へと立て替わり 万互いに助け合う陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます



第五回 登殿参列

登殿参列

◎第5回

立教177年5月26日

武内正美(高屋)、赤木素志(吸)

江)、中村道德(照陽)、谷内伸自(輝美濃)、三島渉(新山邑)、河原節喜(皆部)、吉岡孝彦(芦品)、吉岡輝昭(安那)、吉岡貞彦(芦田川)、貞清知実(三郡)、原公彦(芦常)、小川洋子(芦加茂)、瀬藤教雄(大恵山)、田中幹夫(清嶽)、田渕光明(上備)。

大教会だより

◎第八七五期修養料

自 立教177年3月3日
至 立教177年5月27日

*教養掛

三ヶ月間 今川 昌彦

(大教会役員)

金浦分教会長

一ヶ月目 武内 清和

(香地葉分教会長)

二ヶ月目 仙田 勉

(出雲川津分教会長)

三ヶ月目 藤井 治喜

(福節分教会長)

*修了者

大恵山 瀬藤 大喜
品治 安原 功弥絵
鶴真 頼経 萌

◎『部内名称録』の訂正

4ページ 金浦分教会 電話番号
0865-66-1522 → 0865-66-3222



教祖130年祭に向けての三年千日の二年目の時旬に、ようぼくの集いが開催され、受講させて頂きました。受講の中で、いろいろなお話を聞かせて頂きました。この集いのビデオ

を見て思った事、感じた事は、おたすけ精神を日々にとどのように通らせてもらえるかという事を思った時に、ビデオIでは他人の事情や身上等を自分の事のように考え共に悩み、苦しみ、喜ぶ事。自分の思いや考えではなく神様から見せて頂くお導き全てが本当の幸せへの近道でその中心を治めて通る(心を低く通らせてもらう)事で、何でも喜べる様になる事。更にビデオIIでは、ようぼくの勤めとしておたすけ心を心掛け真剣・真実・真心で共にたすけ合う事、人間は皆兄弟姉妹である事の教えを伝える。それが日々丹精、世界たすけの道であると聞かされました。又、自分出来るおたすけを何からでも実行させて頂こうと聞かせてもらい、自分自身も思いながらも日々は中々生活に流されがちだが、この教祖130年祭に向けて、自分の出来るかぎり、出来るだけ相手の気持ちになつて接し、神様にお願いさせてもらい、神様のお話を少しでも聞いてもらえる様に努力したいと思います。

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は一句からでも結構です。

寄稿先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



稿案・天理教笠岡大教会史年表 昭和四十六年から平成二十三年末

昭和四十六年末までの大教会史は「天理教笠岡大教会史第一巻」に収録されている。昭和四十七年以降の年表を書き進めるに当たって昭和四十六年竣工した移転建築普請の概要を年表で記しておく。

<p>昭和41年 (1966年) 立教129年</p>	<p>2・20 四代会長・上原郁雄から移転建築ふしん打ち出し</p> <p>6・20～21 ふしん講習会 講師・大教会世話人・本部員 榎井孝四郎先生、大教会長、老会長(三代会長・上原繁雄) 受講者:ふしん委員、ふしん実行委員</p> <p>常任委員任命</p> <p>第一回ふしん実行委員会</p> <p>6・22 第一回ふしん委員会 「一手ふしん」のスローガン決定</p> <p>12・5 移転地買収契約成立 総面積 七八八二坪 支払い期日 昭和四十二年三月三〇日 十二月十四日</p> <p>小林州弘氏に神殿図面原案作成を依頼</p>
	<p>1・9 大教会年頭会議 移転地買収についてねりあい ふしん実行委員買収予定地視察</p> <p>2月中 移転地買収についての一斉部内巡教</p> <p>3・30 移転地購入 登記完了</p>
<p>昭和42年 (1967年) 立教130年</p>	<p>3・31 移転地及び建築建物について具体案をねりあう</p> <p>5・25 井上久雄氏に建築建物設計図原案を依頼</p> <p>6・2 移転地への参道工事着手 市有地を借用して井戸掘工事着手</p> <p>6・20 井戸掘工事完了 水質良好 水量豊富</p> <p>6・25 原田一平氏に設計図案を依頼</p> <p>9・19 参道工事完了</p> <p>9・26 各種設計図案を検討の上、匠建築設計事務所の案(原田一平氏作成)に絞って検討を重ねる事に決定</p> <p>10・21 第二回ふしん実行委員会開催 全部内教会へ設計図案を配布 検討依頼</p> <p>11・14 二代真柱様お出直し</p>
<p>昭和43年 (1968年) 立教131年</p>	<p>1・9 大教会年頭会議 昭和四十六年が創立八十周年、二代会長五十年祭執行の年に当たるので、移転普請完成の年とする旨発表</p> <p>2・21～22 教義講習会 上田民夫、前川正通両本部員先生講話 「別席者五千人達成」の打ち出し</p> <p>5・2 「別席者五千人達成」特別巡教始まる</p> <p>6・19 三代真柱様移転地御視察</p> <p>8・5 移転地北側の山林七百坪追加買収</p> <p>10・25 真柱継承奉告祭</p> <p>11・21 第三回ふしん実行委員会開催 ふしんお供袋を配布 毎月、身上かしまのかりもの喜びの理を大</p>